

名古屋港の新たな集いの場、ついにグランドオープン！ 旧文具ビルを改装したまちづくりの新たな拠点 「Minatomachi POTLUCK BUILDING」 オープニングイベントを開催。

港まちづくり協議会は10月4日(日)、商店街の旧文具店ビルをリノベーションした新たな拠点「Minatomachi POTLUCK BUILDING (港まちポットラックビル)」をグランドオープンします。そしてこれを機に、アートやクリエイティブな視点を取り入れたプロジェクトを展開していきます。



■ 施設案内

1F

ラウンジスペース
(情報発信スペース)

港まちの情報、全国のまちづくりやアート関連の情報を発信します。イベント等を行うスペースとしても活用します。

2F

プロジェクト・スペース
(多目的スペース)

コミュニティ活動に関わるイベントやワークショップ、ミーティングなどを行います。クリエイティブを取り入れたまちづくりのプロジェクトや展示などを展開します。

3F

エキシビション・スペース
(展示スペース)

グランドオープンを皮切りにスタートするアートプログラム『Minatomachi Art Table, Nagoya [MAT, Nagoya]』が企画・運営し、現代美術を中心とした企画展を行います。

■ グランドオープンの見どころ

1 港まちの新たな複合拠点、キーワードは「POTLUCK(ポットラック)」

POTLUCK(ポットラック)には、“ありあわせ／持ち寄り料理”という意味があり、その本質には、いまある資源を活かすこと、場所や時間を楽しむことなど、人間の創造的営為が読み取れます。本拠点ではこの考えに基づき、来訪するさまざまな人たちがアイデアや知恵、時には課題を持ち寄り、思考や対話を実践し共有することで、新たな考え方が生みだされる場所となることを目指します。

2 新たなアートプログラム「MAT, Nagoya」スタート

この港まちのエリアでは、1980年代以降さまざまな国際的な現代アートの活動が行われてきた歴史があります。その素地を受け継ぎ、創造性を持って活動する人びとを歓迎し、制作・実践の場を創出することによって、創造的なアイデアをまちに還元していくことを目指すべく、新たなアートのプログラム「Minatomachi Art Table, Nagoya(港まちアートテーブル、なごや) [MAT, Nagoya]」を始動します。

Minatomachi
Art
Table,
Nagoya

MAT.
Nagoya

大きな特色

アートセンター的な機能を持った、
アーティスト／クリエイティブに携わる人のためのプログラムです。

港まちは、クリエイティブな 人材を歓迎します。

- アート／音楽／デザイン／建築などの活動や制作環境・滞在のサポート
- アーティストをはじめ、アートを支える人びとの活動に関わる相談への対応

アートが生まれる 現場をつくります。

- 「Minatomachi POTLUCK BUILDING」を拠点に、展覧会やプロジェクトなどを展開・国内外のアートスペースとの連携など、名古屋エリアと他都市とのネットワークを構築・名古屋エリアのアーティストのスタジオ訪問やリサーチのアテンドなど、アートに関するコーディネート

この地域のこれまでの 歴史と現在をつなぎ、 これからの考えるための 土壌をつくります。

- 課題やアイデアを共有する場としてスクールプログラム「POTLUCK SCHOOL」の開催
- 空き家など港まちの資源を活かしたプロジェクト「WAKE UP! PROJECT」の展開
- 「MAT, Nagoya」を通して生まれた創造的なアイデアのアーカイブ

名称の「テーブル」には、
「テーブルにのせる／思考する場」などの意味があります。

このプログラムを通じて、アートの本質的な要素をまちに取り入れることで、「テーブル」という言葉が多様な意味を持つように、このまちの中でさまざまな意義や表現をもった媒体となることを目指します。

アートコーディネーター／アーティスト／アートマネージャーなど、
アートの現場に携わる人々が企画運営を行います。

構成メンバー

プログラムディレクション |

吉田有里 (アートコーディネーター/港まちづくり協議会)

青田真也 (アーティスト)

野田智子 (アートマネージャー)

コーディネーター |

児玉美香 (アートコーディネーター/港まちづくり協議会)

コミッティー |

飯田志保子 (キュレーター)

江坂恵里子 (デザインコーディネーター)

佐藤克久 (美術家)

ビジュアルデザイン | Sundwich inc.

コンストラクター | ミラクルファクトリー

■ オープニングプログラム

各プログラムの詳しい内容は、別紙で紹介している個別リリースを御覧ください。

アート

1 MAT Exhibition vol.1 「THE BEGINNINGS (or Open-Ended)」

第1回となる本展は「THE BEGINNINGS(or Open-Ended)」と題し、2組のアーティスト(毛利悠子、ペーター・フィッシュリ&ダヴィッド・ヴァイス)の作品を段階的に展示します。2期に渡り開催する本展は、1期で、両者のこれまでの過去の作品を中心に、2期では毛利悠子がまちをリサーチし、その体験を元に、新作を制作します。



〈I/O—ある作曲家の部屋〉横浜美術館(2014)
撮影:田中雄一郎 提供:横浜トリエンナーレ組織委員会

Minatomachi
Art
Table,
Nagoya

MAT.
Nagoya

期 間

第1期 2015年10月4日(日) — 10月31日(土)
第2期 2016年2月26日(金) — 3月27日(日)

参加アーティスト

毛利悠子(1980年生まれ/東京在住)
ペーター・フィッシュリ&ダヴィッド・ヴァイス
(フィッシュリ:1952年生まれ/スイス在住)(ヴァイス: 1946年生まれ/2012年没)

ゲストキュレーター

飯田志保子(1975年生まれ/名古屋・東京在住)
東京藝術大学美術学部先端芸術表現科准教授

まちづくり

2 港まち100周年記念企画 ～港まちのこれまでとこれから／ Link the past to the future of Port Town～

2階ではまちづくり×クリエイティブを中心としたイベントや展示を行います。今年この地域の小学校が100周年を迎えるにあたり、このまちの「これまでに学び、これからの考える」をテーマに、地域の方からお借りした、昔のまちの写真を展示します。写真を見て思い出す一人ひとりの記憶を文字に残し、個人の思い出からまちの歴史をアーカイブしていきます。本展は期間中に来場された方たちの思い出もその場で追加していただくことで、様々な世代の交流の場となっていくことを目指します。



期 間

2015年10月4日(日) — 11月7日(土)
まちの方から、200枚以上の写真をご提供頂いています。

各展示会の詳細

会 場

Minatomachi
POTLUCK BUILDING 2・3F

開館時間

11:00 — 19:00

休 館 日

日・月・祝 10月31日(日)と3月27日(日)は開館

入 場 料

無料

アート

×

まちづくり

3 WAKE UP! PROJECT ～Botão Exhibition vol.1「青いリボン」～

MAT, Nagoyaが手掛ける空き家を活用した「WAKE UP! PROJECT」の第1弾として、旧ボタン店を改修したウインドーギャラリー:Botão Gallery(ボタンギャラリー)が同時オープンします。監修にアーティストの渡辺英司を迎え、オープン記念展として、カラフルな光を取り入れた作品を展開するイギリス人アーティスト、アダム・バーカー ミルの作品を展示します。



期 間

2015年10月4日(日) — 10月31日(土)

参加アーティスト

アダム・バーカー ミル (1940年生まれ/イギリス在住)

企画監修

渡辺英司(1961年生まれ/名古屋在住)
アーティスト

会 場

Botão Gallery (ボタンギャラリー)

開館時間

11:00 — 19:00

入 場 料

無料

Minatomachi
Art
Table,
Nagoya

MAT.
Nagoya

お問い合わせ

港まちづくり協議会事務局 広報 | 岡西

〒455-0037 名古屋市港区名港1-19-23

Minatomachi POTLUCK BUILDING

(港まちポットラックビル)

TEL | 052-654-8911

Mail | okanishi@minatomachi.jp

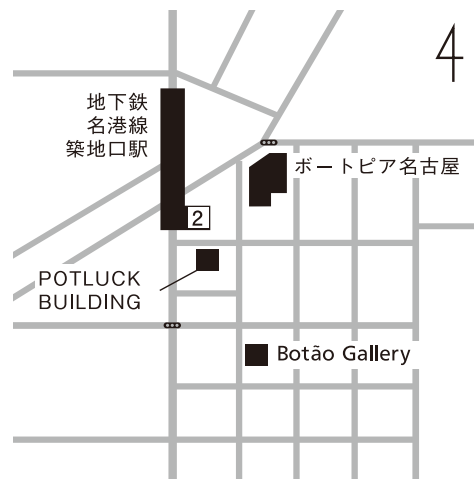
Web | minatomachi.jp

Minatomachi POTLUCK BUILDING

名古屋市港区名港1-19-23

Botão Gallery (ボタンギャラリー)

名古屋市港区名港1-15-13



港まちづくり協議会 / Joint Committee of Port Town

広く内外の方々に誇れる「なごやのみ(ん)なとまち」を目指し、2006年より名古屋の港まちのエリアで、住民と行政との協働によるまちづくりの活動を行っている団体です。「暮らす、集う、創る」をテーマに、防災、子育て、各種のコミュニティ活動、魅力・賑わいづくり、アートプログラムなど、クリエイティブな視点を通した、さまざまな事業を展開しています。

■ ゲストプロフィール

毛利 悠子 / Yuko MOHRI (アーティスト)

1980年神奈川県生まれ。東京都在住。日用品やジャンクと機械部品を再構成した立体物を展示環境に寄り添わせることで、磁力や重力、光、温度など、目に見えない力をセンシングするインスタレーション作品を制作している。2015年春より半年間、アジア・カルチュラル・カウンシル(ACC)の招聘でニューヨークに滞在。近年の主な展覧会に「ヨコハマトリエンナーレ2014」(横浜美術館、2014年)、「札幌国際芸術祭2014」(清華亭／チ・カ・ホ、2014年)、「Unseen Existence」(Hong Kong Arts Centre、香港、2014年)、「トランスメディアアール 14」(ハウス・デア・クルトゥレン・デア・ヴェルト、ベルリン、2014年)、「おろち」(waitingroom、東京、2013年)、「サーカス」(東京都現代美術館ブルームバーグ・パヴィリオン、2012年)など国内外多数。東京駅構内の水漏れの対処現場のフィールドワーク「モレモレ東京」を主宰。



〈I/O—ある作曲家の部屋〉横浜美術館(2014)
撮影:田中雄一郎 提供:横浜トリエンナーレ組織委員会

ペーター・フィッシュリ&ダヴィッド・ヴァイス / Peter Fischli & David Weiss (アーティスト)

ペーター・フィッシュリ:1952年チューリッヒ生まれ。チューリッヒ在住。
ダヴィッド・ヴァイス:1946年チューリッヒ生まれ。2012年に逝去。
1979年より共同で制作を始める。彫刻や映像、写真、インスタレーションなど様々なメディアを用いて、ありふれた日常の光景をテーマにユーモアや皮肉を織り交ぜた作品を発表している。主な展覧会:「映像フェスティバル2013よくある逆さま言葉 ペーター・フィッシュリ&ダヴィッド・ヴァイスの世界」(北海道近代美術館、2013年)、「Rock on Top of Another Rock」(Kensington Gardens, Serpentine Gallery, ロンドン、2013年)、「Peter Fischli/David Weiss」(Sprüth Magers, ベルリン、2013年)、「ペーター・フィッシュリ ダヴィッド・ヴァイス」(金沢21世紀美術館、2010年)など世界中の美術館、ビエンナーレで展示されている。



copyright the artists Courtesy Galerie Eva Presenhuber, Zurich; Sprüth Magers, Berlin / London; Matthew Marks Gallery, New York, Los Angeles

飯田 志保子 / Shihoko IIDA (キュレーター)

1975年東京都生まれ。東京藝術大学美術学部先端芸術表現科准教授。1998-2009年東京オペラシティアートギャラリーキュレーター。2011年までクイーンズランド州立美術館に客員キュレーターとして在籍後、「あいちトリエンナーレ2013」共同キュレーター、「第15回アジア・アート・ビエンナーレ・バングラデシュ」日本公式参加キュレーター、「札幌国際芸術祭2014」アソシエイト・キュレーターなどを歴任。



札幌国際芸術祭2014企画展示「都市と自然」宮永愛子作品のキュレーターワーク風景

渡辺 英司 / Eiji Watanabe (アーティスト)

美術作家。1961年愛知県生まれ。1985年愛知県立芸術大学彫刻家卒業。2004年-2005年文化庁芸術家在外派遣研修員としてスコットランドに滞在(エジンバラ芸術大学客員研究員)。主な個展に、ケンジタギャラリー(名古屋/東京)、Cairn Gallery(スコットランド)、美濃加茂市民ミュージアム(岐阜)。主なグループ展に、2007年「笑い展:現代アートにみる(おかしみ)の事情」森美術館(東京)、「越後妻有アートトリエンナーレ2009」、「あいちトリエンナーレ2010」、「日産アートアワード2013」



〈蝶職園〉2011, うらわ美術館

アダム・バーカー ミル / Adam Barker-mill (アーティスト)

1940年イギリス生まれ。子供時代に自宅の近所にあった洞窟に魅了されて光に興味を持つ。ライティング・カメラマンを経て、1984年に本格的に作品制作をスタートする。既存のものの色を光で表現することで、光を言語として扱った作品や、色によって感情の変化を表現する作品など、光や色について、自然光や電球を用いたインスタレーションを制作し、世界各地で発表している。



〈Nastro Azzuro〉

広報用画像の使用について

本プレスリリース内の画像を掲載する場合は、下記へお問い合わせください。※写真に添付しているキャプション・クレジット等を正確に表記してください。
港まちづくり協議会 広報 | 関西 okanishi@minnatomachi.jp